岳北地域高校の魅力づくり研究協議会　第４回飯山高校部会　会議録概要

１　開催日時　　令和３年２月１日(月)　午後１時00分～2時30分

２　場　　所　　飯山市役所４階　第３委員会室

３　出 席 者

部会長	飯山市長	足立　正則
	飯山市教育長	長瀬　哲
	野沢温泉村教育長	岩上　芳宗
	飯山高校同窓会長	宮本　衡司
	飯水中学校長会長	山田　晃
	飯水PTA連合会長	吉越　伸吾
	飯山高等学校校長	滝澤　崇
	高校再編推進室	上原　一善
事務局	教育部長	常田　新司
	子ども育成課長	岩崎　敏
	学校教育係	佐藤　優季子

４　会議の経過及び発言

１　開　会

子ども育成課長）
　お疲れ様です。定刻となりましたので、只今から岳北地域高校の魅力づくり研究協議会　第４回目となります飯山高校部会をはじめさせていただきます。なお、本日副部会長の富井村長様、飯山高校PTA会長の坂東様が欠席というご連絡をいただいております。
　会議に先立ちまして、足立部会長よりご挨拶お願いします。

２　部会長あいさつ

部会長）
　第４回目の飯山高校部会になりますが、みなさま方にはご多忙な中ご出席いただきありがとうございます。今日また飯山高校につきましてみなさんからご意見賜りまして、下高井農林高校部会との全体会もある訳でございますので、またその日程も踏まえながら進めさせていただければと思います。丁度時節的にみなさま方お忙しい時期になる訳でございますが、本日の会議につきましてよろしくお願いしたいと思います。以上です。

子ども育成課長）
　それでは協議事項に入らせていただきます。協議事項の進行につきましては部会長の進行でお願いいたします。

３　協議事項

（１）飯山高校の現状と課題について

部会長）
　それでは、早速協議事項に入ります。飯山高校の現状と課題についてですが、事務局の方で何かありましたらお願いします。無いようでしたら、校長先生お願いします。

飯山高等学校校長）
　飯山高校です。本当にありがとうございます。協議会の議論の中におきまして、飯山高校として励みになる助言、あるいは身が引き締まるご意見等いただきまして本当に有難いと思っております。どうしても学校の中の感覚と、外の方のご意見と全てが一致しているということではございませんので、そういったところは自分たちの中で振り返りながら、また伝わりきっていない部分もあると思いますので、改善していければと思っています。
　飯山高校の現状ということですが、１回目の協議会のところで学校要覧で少し説明をさせていただきましたが、基本にあるのはこれまでの一次統合、二次統合の中で、飯山北、飯山南、飯山照岡の３校が段階的に統合してきて、飯山市内における唯一の普通高校で、岳北地域の子ども達を育てていく学校であるという柱に沿って、学校が統合を果たして、先輩方々のご尽力によって今があるというふうに思っています。
　現在の飯山高校の敷地に全ての科が統合するようになって５年が経過することになります。普通科、探究科、スポーツ科学科の３つの科で、子ども達がそれぞれの教育課程の中で、それぞれ学んで、それぞれの進路に向かって羽ばたいていくということを目標にしてやってきています。現状、進路で考えてみれば、ほぼ進学です。国公立が卒業生全体の１４％、私立の４年生大学が３９％、専門学校が２７％、就職が７％とそれ以外に若干ありますが、そういった進路を選ぶ傾向にあります。進学する生徒がとても多いです。探究科は進学校としての位置付け、期待、そういったものを果たすべく国公立大学を始め、難関大学の入試に対応できる教育課程に基づいて、学習をしております。もちろん今年始まった共通テストにも対応できる体制を取っております。
　それとともに文部科学省のＳＳＨ、スーパーサイエンハイススクールの指定を受けて２期目、５年目を迎えております。そんな中で課題研究を中心とする探究的な学習、これに力を入れてきております。各種大会やコンテスト等での入賞、長野県レベルはもちろんですが、全国大会でのコンテストでも入賞を果たしてきています。また、中には課題研究のテーマを使って難関大学にチャレンジをして合格していった生徒も現実におります。現在ＳＳＨは第３期に向けて今計画書を提出いたしまして、これから文部科学省等々ヒアリング（地検）に入っていく訳ですが、これまで以上に探究活動、課題研究、主体的で対話的な深い学び、そういったものが子ども達の身に付くような計画を立てているところです。　普通科に関しましては、幅広い学力と幅広い進路希望、それに全て対応すべく、国公立を始め４年制大学から短大、専門学校、就職とそういった進路に対応する教育課程を組んでおります。具体的には、２年生・３年生において選択科目を多様なものにしています。それは進学対策であったり、就職対策であったり、あるいは地元の産業の伝統工芸や飯山仏壇、内山和紙等を学んでいる生徒もおります。進学とともに地域に根差した、そういったところを両立していく、そして多様な子ども達の希望に答えていく、これが普通科だと思っております。
　スポーツ科学科は結果を残している、スキー、野球、それからもちろんご存知だと思いますが陸上につきましても着実に実績を上げてきております。剣道も着実に頑張ってきているところです。確かにスポーツは結果で見られる訳でございますが、スポーツ科学科ということで実技だけではなく、科学的に他の科と同じように、探究活動することで自分たちの競技、あるいはスポーツといったものを研究して３年間学習をしていって卒業後の進路に備えるという活動をしております。
　クラブ活動については、スポーツ科学科、探究科、普通科の３つの科合同でやっています。もちろん生徒会活動も合同で行っています。学校種によっては、科ごとで全然接点が無いと、特に工業系の学校ですと科が違いますと３年間全く教員・生徒ともに接点が無く終わってしまうということがあるのですが、本校の場合には５年前にあの地に１つになるというところから、３つの科の融合、１つになることをお互い認め合うことを目指して教育活動をやってきていました。私５年ぶりくらいに帰ってきまして、その部分は本当にスムーズに気持ちよく子ども達のところで３つの科の違いを認めつつ活気のある活動ができているのだなと感じています。
　現状出身者のパーセンテージですが、岳北地域から６２％、中野・山ノ内から２３％ということで、中野以北から８５％の子ども達が飯山高校へ通ってきています。まだま

だ地域の方の期待に全て応えきっているとは言えないかもしれませんが、そのパーセンテージを見ればこの地域の子ども達にも飯山高校の３つの科での教育活動が、保護者の方にも理解されていて、飯山高校へ進学してくれるというふうに考えています。その期が現状です。個人的な感想とすれば、飯山地区の飯山高校として、先生・生徒の頑張りで良い教育活動ができているのではないかなというふうに思っているところです。以上です。

部会長）
　はい、ありがとうございました。今校長先生からお話いただきましたが、前回の会議のことで、校長先生へご質問やご意見ありますか。
　今校長先生から課題についてのお話がありましたけれども、前回の３回の会議で出た意見がまとまっているので、事務局から話をしてください。

教育部長）
　事務局から説明

部会長）
　前回までのものを整理したものですが、先程校長先生からもいろいろ課題等お聞きした訳ですが、全体を含めてそれぞれ委員さんの方から何かございましたらお願いします。長瀬教育長の方から何かありますか。

飯山市教育長）
　滝澤校長先生に教えてもらいたいのですが、今県の方で3つの方針ということで、各普通高校が出しているのですが、飯山高校の3つの方針で特に力を入れたいところがあれば教えていただきたいです。

飯山高等学校校長）
　3つの方針を相対的文章で言うと、岳北地域の豊かな自然環境の中で地域社会と密着した活動やスーパーサイエンスハイスクールの取り組みを通して未来を創造する人材の育成というのが、最初の大目標である訳で、そこから育成方針と教育課程の編成方針と募集方針がある訳ですが、どれを重点的にと言われるとなかなか難しいところで、またどこかに重点を当ててしまうとなると当たらなかった科のこと出てきますので、どうしても総括的な言い方になってしまうというのは否めないことかなと思っています。ただそれはマイナスというふうに受け止められる部分もあるかもしれませんが、とにかくこの時期のいろいろな子に対応しているという受け止め方もしていただけるのかなと思っているところです。ただ、今までの歴史を考えていけば、やっぱり進学という部分については第1のこととして使命はあるのではないかと個人的には思っています。

部会長）
　よろしいですか。
　岩上先生どうでしょう。

野沢温泉村教育長）
　事務局の方からご説明があったのですが、第4回飯山高校部会資料のカリキュラムのところで、真ん中の四角の中に2つ目「探究する力」が重要になってくる。というのは分かるが、その後の探究する力は大学受験のためではなく、実社会で生きて働く力であるという位置付けで捉えるというのは、こういう捉えで良かったですか。私の感覚としては探究する力そのものが、今年の大学受験を見てもそうですが、探究心を問うような受験、試験の内容であったように思います。簡単に暗記すれば答えられる試験ではなくなってきている。探究する力を飯山高校で求める時に、地域のみなさん一般的に大学受験のためではなく実社会で働く力であると位置づ

けるというのでは、少し狭いように思う。大学受験そのものに直結していると捉えていいと思う。その辺、校長先生またお願いします。

飯山高等学校校長）
　探究する力は、一生涯を通じて身に付けていくべき力だと思います。なので、もちろん大学受験にも通用する部分もあると思うし、実社会においてつながる部分もあると思う。ですので、大学受験から実社会へ出てその子の人生にとってという文章の方が、おそらく探究する力の目的には合っているのだろうなというふうに思っています。文章的には少し文言は変えていった方がいいのかなと思います。

教育部長）
　この部分については、大学受験のためではなくを大学受験だけではなくと表現を変えさせていただきます。

飯水中学校長会長）
　今の探究する力というのは私が書いたのですが、今日ここに資料で出していただいている堀川高校もそうなのですが、今いわゆる教育の中において大事なのは探究力と言われているのですが、小中学校で言うと総合的な学習の時間が非常に大事ですよと。何故かというと総合的な学習の時間にしっかり取り組んでいる学校は、全国学力学習状況調査においてもそれなりのいい結果が出ているという、そういう関連性があるのです。私が書いた大学受験のためではなくというのは、大学受験という狭いところではなく、もっと探究する力が身に付けば、今の制度で言う大学受験にも対応できますし、今後もっと大学受験の在り方が変わっていったとしても、通用するだろうなというところで、学ぶ意欲とかそういうところが探究する力を身に付けていく上で大事になってくると考えています。例えば、今新型コロナということがありますが、解決策は誰も分からないですよね。こういう難題にぶち当たった時に、どういうふうに解決していくかというところが、まさに探究する力が必要となるところだと思いますので、そんな意味で考えております。ですので、これが探究科のみに必要ではなくて、全ての高校生に必要なものだと、それをベースにして行っていったらどうかなということで書かせていただきました。以上です。

部会長）
　ありがとうございました。他にありますか。

飯山市教育長）
　滝澤校長先生の見解をお聞きしたいというか、飯山市を預かっているもので、先生方みたいに長野県全体の高校教育という大きな目で考えなければいけないが、飯山市の地域の活性化とか枠にこだわってしまうのでそういう観点から質問します。
　飯山高校のスポーツ科に所属する、城南・城北中学校の生徒の比率が非常に低い訳です。というのは、平成２６年から令和元年までその間の６年間の平均が定員４０人に対して１６．０％なんです。地域とすればスポーツ科に行く生徒が非常に少ない訳です。その辺は高校サイドから見て何が原因だと分析をされていますか。例えば、スキーでも優秀な子は探究科へ行ったりしている訳ですよね。その辺の高校サイドから見た見解はどうですか。

飯山高等学校校長）
　一番はスキーをやる子ども達の数がおそらく減っているのだろうなというふうに思っています。中学まではやっても、高校へ行って続けようという数字も変わってきて、減っているのではないかと思います。その理由についてはいろいろあるのだろうと思いますけど、大学であったり、その後社会人としてのことであったり、スキーがその子の人生にとってどういう意味合いを持つのか、その中でその子が何歳までスキーを続けていくのか、本人も考えるしご家庭の方も考える

し、スキーを取り巻く社会情勢というのもあるだろうし、そういったところがスキーを競技としてやる地元の選手の少なさに影響しているのではないのかなと個人的には思っています。元々は南校の時代にはスキー科と言いますか、スキー専門でやっていましたが、定員割れを起こす中で多種目を導入するという歴史がありました。当時は剣道と女子バレーボールと野球というものだったと思いますが、それがだんだん変遷を経て現在の4つの選考種目になってきている。だから少ない理由とすれば、競技者の数が少ない社会情勢ということがあると思っています。これが、カリキュラムに影響があるというふうには自分たちの検証の中では見えていないところですし、指導者的にも全国屈指の指導者が本校にはいると思っていますし、遠征や大会に行く、そういう体制も他の県立高校では有り得ない体制を取っています。ただ、私立の学校にはどうしても敵わないということはあります。特に私立の中でも通信制の学校の単位認定の仕組みから考えてみれば、学校へ登校するということが全日制から比べると少ない訳ですから、冬季間競技に専念できるという環境は私立の通信制にはあるのだろうなというふうに思っています。かといって、県外のそういったところへ地元の子が流れてしまっているかというと、そういった話はあまり耳に入ってこないです。スポーツ全般に私立の通信制であることは言えると思うのですが、現状県立高校の中では全国に名だたる飯山高校のスポーツ科学科であるという理解でいます。

飯山市教育長）
　城南・城北の中学生があまり行かないというのは、突き詰めていくと地域にとって普通科の方が有難いというのが正直なところです。普通科の中でクラブをやって、文武両道でね。というのは、1つには中学生から高校生になる時に、自分で専門科目に決めるというのは、他全部捨てることになる訳ですよ。いろいろな選択肢がある中でスポーツ科に入るということは3年間で子どもがいろいろな考えが出てきて選択の幅を広げる時に選択ができないという、専門科というのはそういう目に見えない部分があると思う。だから子ども達、自分が伸びていく、潜在能力を伸ばしていく上ではある程度幅を設けてもらった方が有難いなと思う。そんなのダメだという意見もあると思うが、理想で言えば、地域の活性化を考えるとそういう考えもあります。

飯山高等学校校長）
　今年度在籍生徒数580人で、城北・城南中は263人の生徒さんがいらっしゃいます。4割以上の子が占めるのが城北・城南中の子達で、地元から来ていただいていると思うし、教育長がおっしゃることももっともなことで、普通科で幅広く選択していくということも大事ですが、最近のトップに行くにはやはりジュニアの内から専門的にやる子達がいるという実例が日本のスポーツ界の中にもある中で、世界で活躍するジュニアの子達は飯山高校のスポーツ科学科で高校時代から学んでいったことも影響しているのはないかと思うと、両面あるだけに何とも難しいなと思っているところです。

飯山市教育長）
　もっと、言わせてもらうと、城北・城南中からも2割近い生徒が長野へ行ってしまっている。その生徒を何とか飯山高校に行かせたい訳です。それが飯山高校の充実に繋がって、しいては地域の活性化に繋がるのではないかと思っています。なんでこんなことを言うかというと、私がこの立場になった時に、日赤の事務長さんが来てこの地域で医学部に行くには、どこがいいですかと言われました。なんでそんなことを聞くのかと言うと、日赤を希望している医師が、自分の子どもが将来この地域に来て進学する場合にこの地域の進学状況が気になるという訳です。そこで、飯山高校の実情を話したり自分の知っている範囲の情報は出したりしました。でも、最終的にその医師は来なかったんです。そういう時に飯山高校がもっといろいろな意味で、充実した高校になっていれば、移住定住にも飯山高校の充実というのは大きな影響力があると思う。そういう意味で地域のエゴで滝澤先生にお聞きしていると承知しながら、お聞きいただければと思います。滝澤先生は県立高校全体なので、飯山のことだけ考えている訳に行かない部分もあると思うのですが、その辺がもう少し飯山高校を充実すれば、外へ流れる生徒が多少、1割、5％くらいまで落ちれば変わっていくのかなと思っています。

飯山高等学校校長）
　課題として思っている部分で、具体的に校名を挙げてはいけないかもしれませんが、長野高校、長野吉田高校、長野日大高校、こういったところに行く子達を飯山高校へ行こうというふう

に考えるのには何が必要かなと思います。長野、長野吉田は昔からある学校で、旧4通学区制の時代もおそらく飯山から長野市内に通われていた卒業生の方とかいらっしゃると思います。そういう中でお互いに伝統があって勉学にクラブに頑張っている学校であるので、そこで選んでもらうに当たって、自分の反省も含めて考えればSSHの宣伝PRが現状の飯山高校には不足しているのではないかというふうに反省をしています。ホームページやSNSも最近はありますので、飯山高校はこういう活動をSSH、探究科を主としてやっていて魅力があるんだよ、もちろんそれは自分の生き方にも繋がっていくし、大学進学にも繋がっていくし、その後の仕事にも繋がっていくので、SSHで学ぶこと、テーマは地元飯山、中山間地というのを必ずテーマにしてやっていますので、飯山高校で学んだ子達がやがて、飯山高校時代に学んだこと、飯山へお返ししようではないが、仕事であったり、起業であったりそういったところへ繋がっていければと思います。進学校で大学進学しました、東京へ進学しました、そのまま東京で就職して帰ってきません、ということも進学校のジレンマだと思います。やっぱり地域とか地元を子ども達、若者達に担ってもらいたいという思いを我々は持っていますから、そういう中でゆくゆくは地元でというきっかけを、あるいは想いを作れるのはSSHかなというふうに思っています。なので現状やろうと思っていますし、今後もかなり拡充していくつもりでいますが、その部分についてやはり我々力不足だったと思いますので、頑張っていきたいと思っています。

部会長）
　他にどうでしょうか。この会議は岳北地域の魅力づくり研究協議会なんですけども、今までの会議やみなさんのお話を聞いていて、私は2つ大事なことがあると思います。1つは、一番大事なのは今長野の方へ進学する子どもが昔よりいっぱいになっています。ただ向こうへ行くのがいいかというと、生徒にとって通学に時間がかかり大変なんですよ。そこへ行った方が地元よりいいのかというと、みんないいのかなと思って行くのだけれど、結果どうだったかというと、必ずしもいいとは言えないと思う。勉強時間が圧倒的に減ってしまう。通学は毎日ですから、できれば地元に進学できる高校があって、地元の飯山高校の魅力を伸ばすということが一番大事だと思います。今何が求められているかというと、1つは先程山田先生がおっしゃったように、時代がどんどん変わってきていまして、今回の大学入試の問題を見ると、随分昔と違うなと思います。昔はいろいろなことをたくさん覚えたが、今は考えさせるようなそんな問題になっていて、これからも大学入試はそういうふうになるとはっきり、明言しているのだけれど、よく探究力というが分かりにくくて、要は課題に対してそれを解決していく力なんですよね。それをありとあらゆる分野で社会に出て一番必要な力なので、そのアプローチの方向や関心の高さを高校時代からやりましょうという目的で探究科が設けられている。そういう考え方と手法は必ずしも探究科だけが必要で、他の学科は必要ないということではないと思います。それをより重点的に教えるのが探究科なんですよね。それを大いにPRすべきじゃないかなということがこの会議の中でも出てきています。探究科は長野県の公立高校の中でもそんなにたくさんないですよね。数学や物理は専門の先生がいるが、探究科の先生方は特別な内容や探究の方法等専門の先生が重点的に来ているのかお伺いしたいところです。

飯山高等学校校長）
　探究活動ということで学校によって科目名があるのですが、そういう科があるのではないので、職員は国語から始まって家庭科までのいわゆる一般的な教科の職員しかいません。探究科の職員というのはいないです。

部会長）
　探究科の職員は、県教委でこの先生は探究を教えるためのプロフェッショナルだという先生はいらっしゃらないということですか。もちろん元々の専門はいいのですが、探究的なアプローチについて大事だと思っていて、今日堀川高校の資料にもありますが、教える側が優れていると思う。特に生徒達に探究しなさいと言っても分からない。これはやっぱりルーティーンというか、定形のものがあると思う。将棋や碁で言えば、定跡や定石があって、それを覚える。そしてそれをマスターしていく中で更に応用的な力を育てていくという。これから特に教育の中では探究的な、100％データはないが、物事をデータ的に捉えてどういうふうにアプローチしていくかということで、それについては教える側がある程度しっかり教えられるような布陣だと思う。それによって生徒の出来が全く変わってくると思うんですよ。まず、そういう体制をぜひ県教委として整

えていただきたい。それはとても大事で、おそらくどこの県もこういう方向だということは分かっていますし、私立の学校もそうだと思うが、そういった人材をそろえて、長野県下に探究科がある学校はたくさんあるわけじゃないので、そういう教えに対してアプローチして身に付けさせるということを整えてもらいたいということが一番大事だと思う。そうすると今みんな敏感なので、普通科でただ知識を詰め込むよりも、そういうことは将来役立ちそうなと思う親御さんや生徒達もたくさんいると思う。飯山高校の探究科へ行けばそうしたノーハウや意欲が磨かれるというふうになれば、流れが変わってくると思う。それに対して教授や先生方の布陣ですか、長野県には信州大学もありますし、堀川高校のように外部の人達の力を借りて探究とはこういうことなんだよと教えていくカリキュラム編成をすると変わってくると思う。

もう一つは、もちろんそれが根幹だが、できたけど大学受験が全然ダメだとなると、これは現実的なところでダメなので、本来はそうした力が付けば大学受験にも強くなるはずだが、すぐに100％となることはないので、そういう力を蓄えながら大学受験にもコミットしていくというようなことができれば、逆に飯山の方へ長野から新幹線を使って来るようになると思う。普通科の生徒も探究科と一緒でその延長上にあるが、それを引っ張って行くのは探究科であるというような位置付けなのかなと思います。そうすると雰囲気も変わってくるし、生徒達にも具体的にこういうことなのかといいうのがはっきり分かる。そういう点でのアプローチが大事だと思う。実際京都の堀川高校のは、私も見ましたが、徹底している。こういうふうに考えてやりましたと発表すると、それに対して論理的な漏れがないかと、内部や外部の大学生や大学院生が突っ込んでたたかれるので、高校生が初めてやっても無理に決まっているのです。一般の大人でも難しい。新入社員ができないのと一緒で、鍛えていくということをやっていけばかなり力が伸びると思う。必ずしも従来のテストをやって点数を取るという、いわゆる知識型の子どもじゃなくても、探究的なことには非常に興味があって深堀するという生徒さんもいらっしゃって、そういう人にとっては有難い。実際世の中に出た時に何々を知っているというのは、今はパソコンやスマートフォンを見れば出てくる。むしろこの問題についてこれは何だろうとか、これはどういうふうにしてやれば改善できるのかということについてはたくさん課題がある。そういうアプローチを飯山高校として、県教委に重点配備していただければ変わってくると思う。課題はあるかもしれませんが、方向とすればそんなところです。

後どうでしょうか。

飯水 PTA 連合会長）

探究力というのは、県教委との懇談会をやらせていただいて、自らが深く掘り下げていく学習に変わっていくのだという説明を教育長からもいただきました。その中で、親として思ったのは小学校出す時にも思ったのですが、親以外で一番親が頼りにしなければならなくて、かつ長時間過ごして委ねなければならないのが学校の先生達で、そこで親から期待するものはすごく大きくて、探究科もそうですが、自分が高校生の時にも思いましたが、スポーツで言えば上手くモチベーションを上げてもらって尻をたたくというか、先生に何とか気持ちを保ってもらって数学をやったり英語をやったりということがありますので、今市長さんが言われたように、探究するような力に科目だけでなく、先生方の経験も踏まえて、子ども達にやる気を出させるというか、問題意識を植え付けるような授業をやっていただけると、やる気を失わず高校を過ごして、大学で深めて、そこで培ったものの仕事に就ければ一番理想なのかなと思います。科目以外のことで精神的に関わってもらえるようなカリキュラムや話す時間を取ってもらえると有難いのかなと思います。

部会長）

滝澤校長先生の方で高校として地元からこういうことを応援してもらうと非常に助かる、学校でこういうことをやりたいのだけれどなかなかできないから地元から応援してもらうと助かるなというようなことがあれば教えてください。

飯山高等学校校長）

マンパワーの支援をいただけると。この中にもでてきますが、民間の専門家とありますが、社会人講師的なマンパワーも有難いし、市長がおっしゃったように教員の数がいないことには生徒一人一人の探究する力を発信できないので、もし、加配と言いますか、そういったものを要望して実現すればこんなうれしいことはありません。もちろん例えば今飯山市と英語と数学で学

力向上事業をやっていますので、そういったところで非常勤講師を飯山市さんの方でというマンパワーも有難いと思います。

部会長）
　幅広い人材の中でということですね。高校教育に役立てるような形で、社会人サイドからのマンパワーということですね。

飯山高等学校校長）
　昔から私が聞いているのは、面倒見のいい学校だというのを飯山市の学校の良さだと聞いています。今、働き方改革等で早く帰ることがある中で、子ども達と接していくには、やっぱり40人を１人の先生が見るのではなくて、20人を１人の先生が見れるようになれば、もちろんもっと少人数の方がいいのですが。そういう体制の方が面倒見のいい学校になりますし、子ども達も先生と話ができるし、モチベーションを上げるようなきっかけ作りもできると思います。なのでマンパワーをいただきたいというのは現実的なところではあります。

飯水 PTA 連合会長）
　先生方が見る人数を少なくとする方法と、４０人を３人の先生で見るという方法もあると思いますけど、それはどちらの方がいいのですか。

飯山高等学校校長）
　部屋というか、具体的な方法といいますか、４０人の教室の中に４０人の生徒と３人の先生がいると、今の頃なのご時世だと密になってしまって、３つに分けてとなると教室数もないという状況です。何とか少人数編成は実現してやっているところではあるのですが、もちろんまだこちらの希望通りにはいっていないのが課題かなと思っています。一斉にではないですがそういう少人数を増やしていければと思っています。やっぱり４０人を３人よりも１３人を１人の方がいいと思います。山田先生どんなもんですかね。

飯水中学校長会長）
　大枠でいくとそうだと思いますが、逆に少なければいいかというとそうでもないと自分は思っていて、おそらく２０人前後が一番多様性があると思う。５人だったらいいかというとそうでもないと思いますので、いろんな発想のある子ども達が集まって一緒に考えるということが大事なんではないかと思います。一斉講義型ではないので、アクティブラーニングと言われる４人１組でなる訳ですが、それが何個もあった中での意見交換が必要なのかなと思います。先程先生がおっしゃった中で言うと、２０人くらいに先生１人ずつが一番いいのかなと思います。

部会長）
　昔、授業が終わってからだと思うのですが、特に数学ですが、生徒に参考書をプリントして配ってやらせ、分からないところを質問させたり、かなり指導していたと思います。普通の授業だけでは時間が無いので、演習をやらせてなおかつフォローしてくれることをされていたと思います。確かに先生方は大変だと思いますが、１０年くらい前かな、以前はやっていたと思うが、今はなかなかそういう体制は難しくなってきていますか。

飯山高等学校校長）
　体制を学校長として作れと言われれば厳しいです。そこまで時間外労働をさせることはできないと思います。探究する力でないが、自分で自分の時間をコントロールして、自分で学習をするということも子ども達には必要な力で、いつも先生達が付いていてくれてというのもいいことではあるが、不安になったりもする。先生達がいなくなったらこの子達は自立していけるのかなと。

部会長）
　中学生くらいまではそれでいいと思うが、高校になるとレベルが違うと思う。特に飯

山高校は進学を目指している生徒が多いので、学校の授業の基本的なものと、それから大学受験の問題はレベルが違います。その間のギャップは誰が埋めるのかということだが、基本的には先生が今おっしゃったが、自分でやるのだが、高校の勉強や特に大学に入るための勉強はとても難しいので、そのギャップを少し教えてあげると生徒の力は伸びると思う。そのやり方が分からなかったり、できることの楽しさが分からなければ、少し後押ししてあげることが必要で大事だと思う。

飯山高等学校校長）
　現状ですが、時間外の部分を県の職員としという手当はできないが、同窓会である桂雪会のご尽力で、平日８時半まで学校に残って勉強していいですよという桂雪アカデミーという事業をやっています。その部分については同窓会である桂雪会さんから負担をしていただいています。その時間学校で勉強をしていて、数学が分からないことがあったら研究室に残っている先生のところに行って聞いてそれを解決することはできるようになっています。もちろん数学だけでなくて英語であったり国語であったり。学習室開放という言い方もあるのですが、勉強していっていいよ、先生がいるところへ聞きに行っていいよという体制で、市長のおっしゃるような、昔のようなシステムはできませんが、子ども達が不安に思ったり、何とか学力を上げたいというのに、答えられるように何とか整合性を取ろうとしているというのが現状です。

部会長）
　大学受験のための学力ということについての課題を言うと、学校の授業は基本的なことを教えていて、基本、入門のレベルなんです。ところが大学へ入るためには応用問題を解かなければいけないので、その間のギャップをどう埋めるかというのが一番の課題なのかなと思います。上位の子ども達は自分で一生懸命やっていけると思うが、その次くらいの人達は指導してあげるとかなり伸びる。その辺のどういうふうにやるかというところでつまづいてしまうといけないので、どうやってやるかというところがまさに上を目指す学校とすると一番の課題だと思う。そこは生徒に完全に放任主義で放っておく学校もありますし、それを上手くサポートして伸ばしてあげるところもある。できれば、将来に向けて大事な時期なので、学校だけでは課題があって難しいので地域と連携してどうサポートしていくのかということも課題ではないかなと思います。先程長瀬教育長が言っていたように、こっちの学校へ行くより長野の学校へ行った方がいいみたいだよということで、どんどん長野へ行ってしまうようでは地域としても非常に困りますし、移住定住の話もありましたが、非常に良い教育をしているということであればこの地域の魅力も増しますから、高校教育がより自分の子ども達の将来に向けてジャンプできるような体制を整えて、小中高と上手くいければと思っているところです。かなりマンパワーが必要になることは事実です。

飯山高校同窓会長）
　校長先生、自分が校長という立場でやりたいと思ったことで、反対があったからできなかったことはありますか。

飯山高等学校校長）
　今はないです。

飯山高校同窓会長）
　飯山高校の校長として名を受けて、赴任されているトップとしてこの高校はこういう方向に行かなければいけない、こうあるべきだということに対して、反対をする人がいることも事実だと思います。そういう人達に対して飯山高校はこういうものだからというふうにやらなければいけないという、教育方針に対しての強さ、ここはこうやりたいという時に強くなっていただければ有難いと思います。
　あと、この会議でも話題に上るのが、普通科と探究科の違いというのが何なのですかということで、今日分かったのが専属の先生はいませんということです。自分たちが高校生の頃は、ガリ勉という生徒がいた訳です。過去の大学の試験問題を一つ一つつぶし

ていて、もっと言うと暗記力で大学に行ける時代であった。ところがだんだん基本的なことが疎かになっていく中で、探究という答えがないものに対して答えを導くような資質、能力を身に付けさせなければいけないというものに徐々に変わってきています。専門的なことも必要になるが、現実に九九が出来なければ話にならないし、１+１が２だと分からないと話にならないし、子ども達を篩にかけることに繋がるが、飯山高校へ行ってこの大学を受けるという昔ながらのガリ勉の猛勉強でやるのか、社会に出た時に通用する人になるためにということもあったので、そのあたりの俺はこの大学へ行く、俺は知識と教養を身に付けるために飯山高校へ来ているという明確な違いに遠慮してはいけないと思う。どちらが良い、悪いということではなく目的を明らかにして、違った目的を持ってきた子ども達に対して差をつけた教育をしていかなければいけないと思う。明確な目的ごとにレベルで分ける時期に来ていると思う。

飯山高等学校校長）
　私が説明不足の部分があったので説明させていただきますけど、普通科も探究科も３年間、単位数で言うと９６とか９７の単位を取って卒業するようになります。その内、普通科で言うと総合の探究系の科目というのは３時間しかないです。後は国語算数理科社会で、探究科に関しては探究の科目は９６の内７しかないです。それ以外は全部大学進学に向けての国語算数理科社会の科目が並んでいます。飯山北高の進学校の伝統のカリキュラムになっています。ただ、探究科というと探究系の科目ばかりをやっているかのような印象を持たれてしまう、私の説明不足な部分がいけなかったのですが、探究科のカリキュラムは完全に大学進学用のカリキュラムになっていて、明らかに普通科とは違います。ただ、それを公に宣伝していくにあたって、あまりそこは出し切れないということはあります。ただ、文字にはできないけど、中学校の進路説明会の時には大学に進学するには探究科を選んでくださいねと言葉ではどこへ行っても伝えてきています。

部会長）
　でも、普通科でも大学にたくさんの生徒がいっていますよね。普通科に行ったからいけないということは無いですよね。その辺のところがよく分からないというか、もう少しはっきりしてもいいような気がするが。

飯山高等学校校長）
　探究活動については市長のおっしゃっている通りで、県はまだ発展途上、途中だと思う。専任の教員、専門にやっているとすれば、県の学びの改革支援課の担当と総合教育センターに専門でやっている方がいる、県教委の中ではそれしかいないです。後は各学校にそれぞれ担当している先生達がいて、それを発表等で情報交換したり、各学校でやってきたことを継続してガイド的なもの、指導法を積み重ねたり、あるいは外部から講師を招いてやってみたりということを積み重ねている最中で、堀川高校みたいにフロントランナーのところは長野県のこういうところよりはあるのだろうなと思います。ただ、我々はＳＳＨ校なので実践研究を見る機会触れる機会が多いですので、そういった先進的な部分を取り入れるところは取り入れていこうと思っていますし、今年度も総合教育センターから２人担当を招いて、職員研修をしたり課題研究と探究はどこが違うのかというようなところから実際に生徒にはどう指導していこうというような講習会をやったりしています。探究について学びながら何とか形に持っていければと、それが現状です。

部会長）
　今、高校再編真最中だが、教育が国で言う次世代のパワーの根源なので、諸外国はすごく力を入れてやっている。日本の場合は特に高校になると、各学校、全県下平等な教育をしなければいけないというものがあるかもしれないが、育成をするために革新的な取り組みが必要ではないかと思う。特に長野県の場合はね。高校教育がなかなか見えてこない。次の時代は激変しているからそこへ向かってどういうふうにしていくかというところはなかなか見えてこない点があって、今はそれぞれご苦労されておられて学校再編の話があるが、どちらかいうと校舎の問題もあるのだけれど、どちらかというと教育

の中身の問題なんだよね。我々は全県下平等にしなければいけないということは無くて、とにかく飯山高校を良くしましょうという線で、どうやれば良くなるのかという出発点でやっていますから、県の標準化のところへ終息しないようにしなければいけない。飯山高校が特徴を持って成果を挙げれば他の高校へ対しての波及効果というものも当然あると思うので、そういうことができないかなと思います。確かに３つの高校が合併したので難しさもあると思うのですが、周辺の中山間地域には将来的にはそういうところが増えてくるのでね。探究の話ももう少し力を入れてやっていくとか、大学進学に向けて受験勉強していることをもう少しアナウンスメントした方がいいような気がします。

飯山高校同窓会長）
　戦後の教育の中で、一番エリート教育を否定してしまったんですよね。どういう思惑があったか分からないが、標準というか、みんなに満遍なく教育の場を与えて、誰もが授業を受けるという中で、突出したエリートを育てるということに対して否定的な考え方が戦後教育の一番の穴だと思います。何でかというと、例えばこれだけ今コロナで騒いでいますよね。ワクチンだ薬だという時にノーベル賞を取った日本人がたくさんいるのに、山中教授みたいに細胞を作り出すことをできた人を輩出した日本の教育の中で、何で日本はワクチンができないのですか、こんなエリートを抱えていても。私、不思議でしょうがないんですよね。そこで差別する訳ではないが、この道にパーフェクトな人間がいたら、こんなことを考えてこんなことをすれば世の中良くなる、こうすればこういう薬ができるということを考えたり、開発したりしていくことで、多くの国民が恩恵を受けて助かる。政治もそうですよね。政治家が間違った方向に行かないようにするには、この政治家についていけば、必ず国が良くなるという、トップ、リーダーを育成していく、エリート教育というものが否定されている時代がかつてあったと思う。それは教育の原点で差別なく一定程度の教育を受けて標準化されて、それはそれでいいのだけれど、ただ社会構造の中でそれだけでは生きていかれないという事実もあるので、普通科がどうだ、探究科がどうだということはないので、社会で生きていく上で一定程度のその道のプロフェッショナル、また指導者を育てていかないといけない時代に入ったのではないかというふうに思います。今のコロナのことで右往左往している日本人を見るにつけ、全部が政治の責任だと思わないし、言うことを聞かない国民がいるせいだとも思わないけど、一定程度の１つのものに対して、この人はこの道のプロだ、リーダーはこの人だという資質を持った人をいろいろな分野で育てていくというのは必要になると思います。

部会長）
　そうですよね。日本の教育は高度経済成長期には大成功した、どこでも仕事ができたが、今の人達はアメリカや中国とか教育は徹底してエリートを育てている。飯山高校部会で話をする内容ではないですが、これからの高校の在り方として、地域のリーダーとかそういう志を持った人とかそういう人をしっかり育てていくという観点も、大事だと思う。
　さて、それでは今日は校長先生から飯山高校の課題も出していただき、それぞれのご意見も伺い、きちっとまとまった訳ではないですが、時間でございますので、これで１回整理させていただいて、この次は全体会になります。協議の方はこれくらいにさせていただきまして、（２）の課題の検討についていろいろご意見いただきましたので３番目の今後の進め方について説明お願いします。

（２）今後の進め方について
事務局から説明

部会長）
　全体会の日程を調整させていただいて、まとめていきたいと思いますのでよろしくお願いします。他にみなさんの方でございますか。よろしいですか。これで協議事項は終了させていただきます。

４　その他

子ども育成課長）
　お疲れさまでした。今部会長や事務局から説明ございましたが、日程を調整させていただき、全体会を開催させていただきたいと思いますが、事務局も特段他はございませんが、委員のみなさんからなければ会議を閉じさせていただきますがよろしいですか。
　それでは、第４回の飯山高校部会を修了させていただきます。お疲れさまでした。